

地震発生時の心構え／行動のポイント

地震発生

最初の大きな揺れは1分間

- ・机の下などで、まず身を守る
- ・使っていた火をすばやく消す
- ・ドア、窓を開け脱出口を確保する



発生1~2分

揺れが収まったらまず火の始末

- ・火が出たら落ちていて初期消火
- ・家族にケガ人がいないか安全確認と確保
- ・ガラスの破片などから足を守る靴をはく



発生3分

隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ

- ・隣近所に声をかけケガ人などの確認、救出
- ・近所に火が出ていたら初期消火
- ・余震に注意



発生5分

ラジオなどで正しい情報を入手

- ・正しい情報をつかむ
- ・電話はなるべく使わない。安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で
- ・家屋倒壊などの危険があれば避難



発生10分

協力して消火 救出・救護活動

- ・助け合いの心が大切
- ・水・食料は蓄えているもので3日分用意
- ・倒れた家には入らない
- ・災害情報・被害情報の収集



発生3日くらい

地震による死亡やケガの原因

地震直後の家具の転倒や建物の倒壊が、死亡や重大なケガの原因となっています。皆さんの生命や財産を守るために、住宅・建物の耐震化が重要です。

※次のような点に心当たりがある住宅は要注意です。

- ・ドアあるいは窓を開けた時、柱と建具との間に著しい縦

長の三角形の隙間があいている。

- ・ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない
- ・窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- ・建物の壁面が傾斜しているのが、座っていても感じられる。
- ・シロアリの成虫が浴室から飛び出す。
- ・屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
- ・モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。

家の中の安全性の向上を図る

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などににより大きなケガをしたり逃げ道をふさがれたりします。家具の固定や配置方法の工夫を行い、家の安全性を高めておきましょう。



耐震診断・改修の重要性／今すぐできる地震対策

桜川市地震ハザードマップ「揺れやすさマップ」

地震ハザードマップ「揺れやすさマップ」は、桜川市直下で起きるマグニチュード6.9の地震を想定して、地震が起きたときに、市の中でどのくらいの揺れの強さ(震度)になるのか計算し、約50メートル四方の区画ごとに色分けして表わしたものです。

ご自宅の周辺や普段からよく行く所、よく通る所などについてマップを広げて再確認しておくことが大切です。

なお、マップには、災害時の一時避難場所や避難場所が記してありますので確認してください。

問合先／都市整備課 (☎581-5111・751-3111代)



地震に備える!

2011年3月11日、あの未曾有の「東日本大震災」発生から2年が経過。私たちは、あの日を機に防災意識が変化したのではないのでしょうか。今なお続く余震、また、首都直下型地震や東海地震などの新たな危機が叫ばれている中、私たちはどんな準備をすれば被災のリスクを軽減できるのでしょうか？3・11の経験を踏まえ今、何が必要か確認しましょう。

あの日から2年「3・11の教訓を活かして」

身近にできる地震防災／地震が起こる前の備え

1 ケガの防止対策!

ガラスの破片でケガをしないように



3 家族で話し合い!

公園に集まる



5 過去の地震の教訓の学習!

万一時は、正しい情報で冷静に行動しよう



2 非常用品の準備!

食料は3日分の準備をしようね



4 地域の危険性の把握!

危険な場所はどこかな 防災マップを作ろうね



6 知識・技術の習得!

救出訓練をしよう 応急救護訓練をしよう



- 非常用品(食料・水・ラジオ・懐中電灯・衣料・医療品現金などの貴重品)は、置く場所を決めて準備しておく
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の回りにあるものの活用を考えておく

- 桜川市の地震ハザードマップに加えて、わが家の防災マップなどを作っておく
- 自分の住む地域の地震危険度を確認しておく

- 日ごろから防災訓練に参加して、身体防護・出火防止・初期消火・救出・応急処置・通報連絡・避難などの方法・手順を身につけておく